

2-3 公共交通の現状と移動実態

1) 公共交通の概況

人口分布は、公共交通で概ねカバーされているものの、郊外部に公共交通空白地域が点在しています。

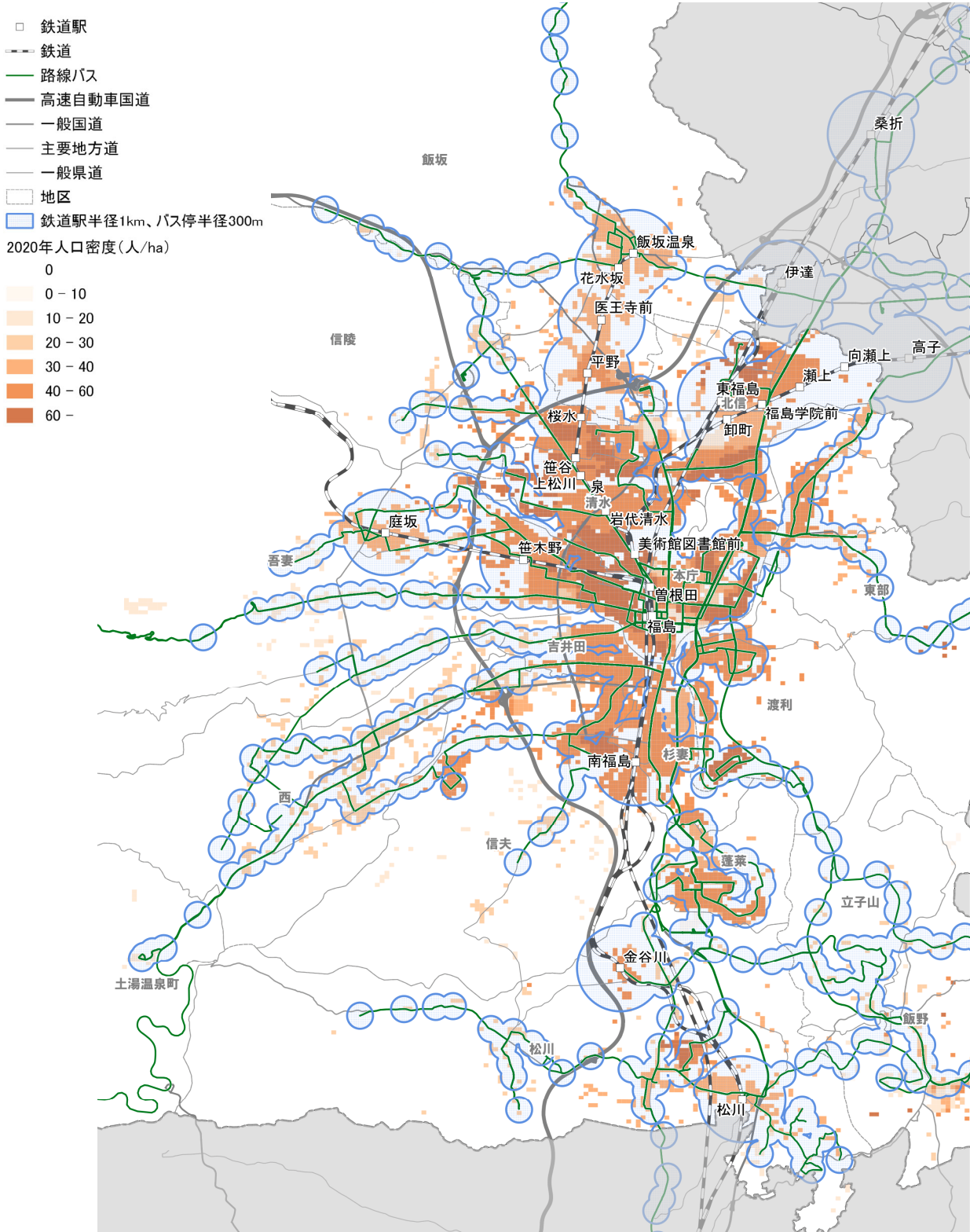


図 公共交通のカバー状況

国勢調査を基に過去 10 年の人口増減をみると、土地区画整理事業に伴い松川町美郷などで人口増加している一方で、昭和 46 年の第 1 期分譲開始から 50 年以上が経つ蓬萊団地などで人口減少が見られます。

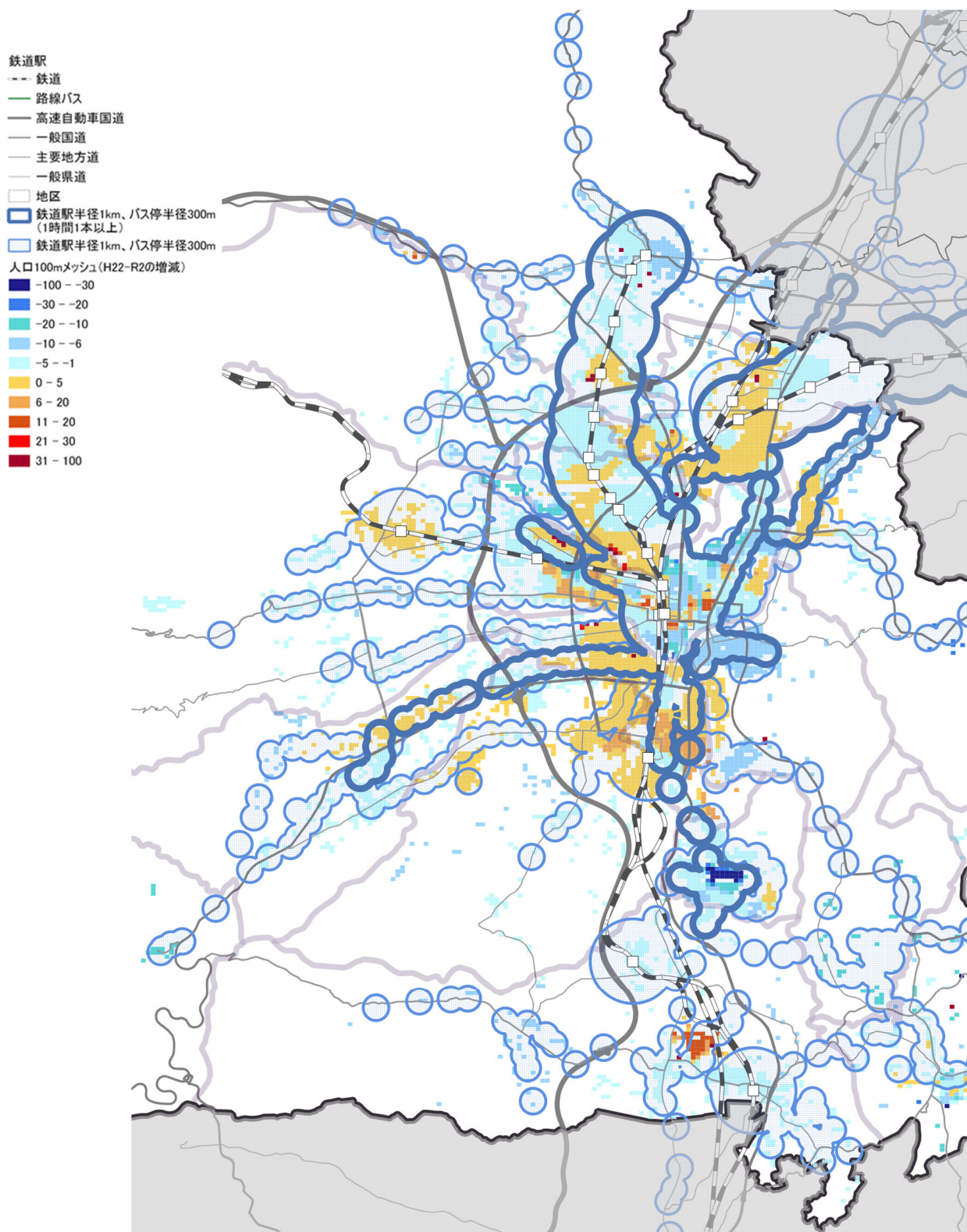


図 平成 22 年と令和 2 年の人口増減

資料：国勢調査（平成 22 年度、令和 2 年度）

2) 公共交通の利用状況

① 鉄道

市内の鉄道輸送人員は、平成 22 年を底に増加に転じていましたが、平成 26 年以降から再び減少傾向となっています。新型コロナウイルス感染症拡大等の影響により令和 2 年は J R 東北本線、阿武隈急行、福島交通飯坂線で令和元年より約 3 割程度利用が落ち込み、J R 東北本線が 5,498 千人、阿武隈急行が 713 千人、福島交通飯坂線が 2,184 千人の鉄道輸送人員となっています。

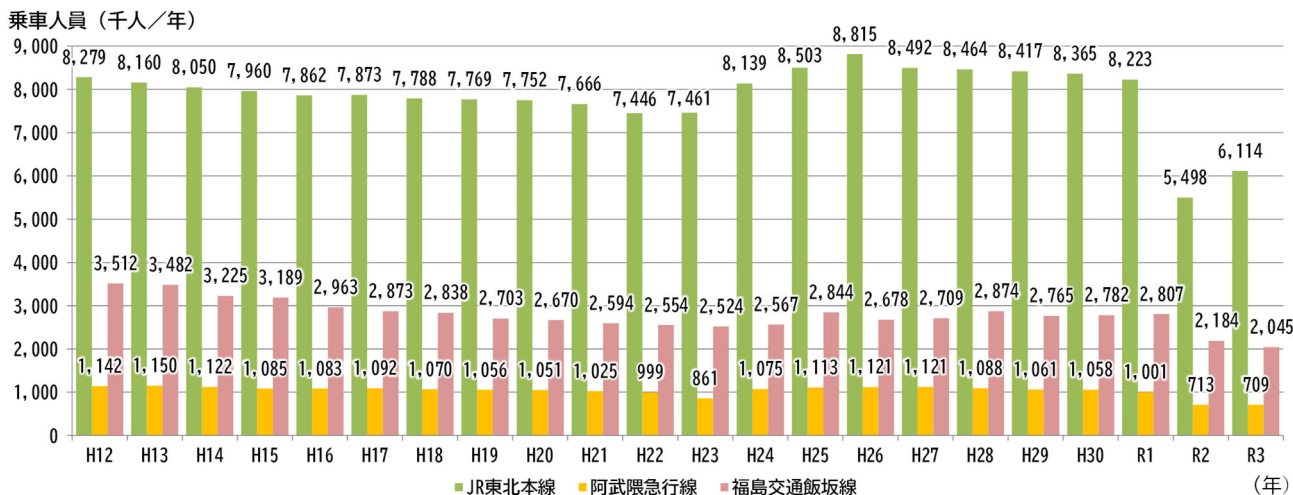


図 鉄道輸送人員の推移

※JR 東北本線：JR 東日本ホームページから 1 日平均乗車人員を年間に拡大した市内 5 駅の年別乗車人数の集計値(4~3 月)
 ※阿武隈急行線：阿武隈急行株式会社の資料に基づき作成した市内 5 駅の年度別乗車人数の集計値(4~3 月)
 ※福島交通飯坂線：福島交通株式会社の資料に基づき作成した会計年度別輸送人員の集計値(10~9 月)

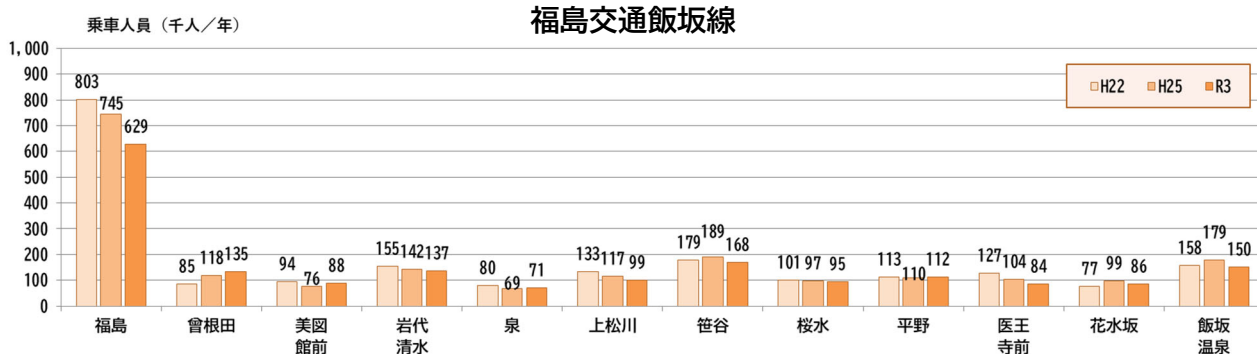
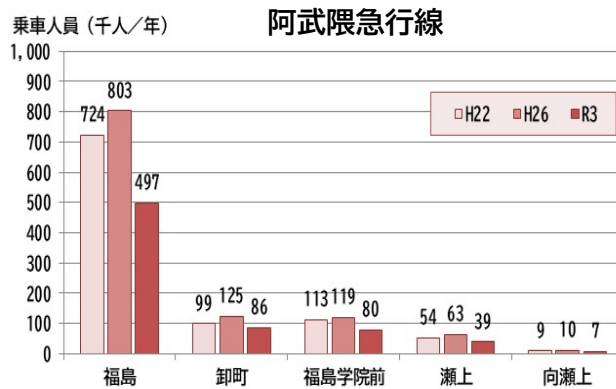
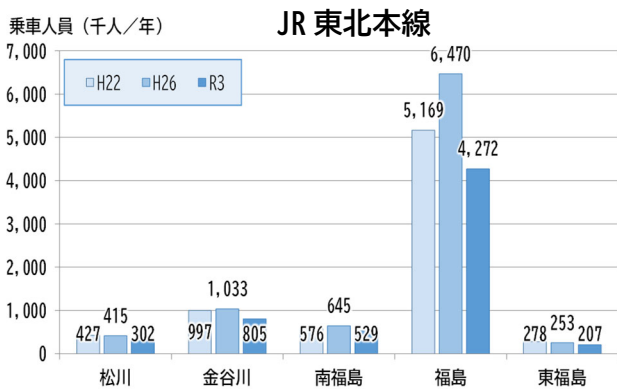


図 駅別鉄道輸送人員

※JR 東北本線：JR 東日本ホームページから 1 日平均乗車人員を年間に拡大した市内 5 駅の年別乗車人数(4~3 月)
 ※阿武隈急行線：阿武隈急行株式会社の資料に基づき作成した市内 5 駅の年度別乗車人数(4~3 月)
 ※福島交通飯坂線：実態調査に基づき作成した年別乗車人数(10~9 月)

② 路線バス

市内の路線バスの年間輸送人員は、平成 21 年まで減少傾向が続き、一時 5,000 千人を割り込んだものの、下げ止まりがみられ、令和元年まで 5,000 千人規模で推移していました。しかしながら、新型コロナウイルス感染症拡大等の影響により、令和 2 年は令和元年より約 3 割利用が落ち込み、3,500 千人台まで減少しています。

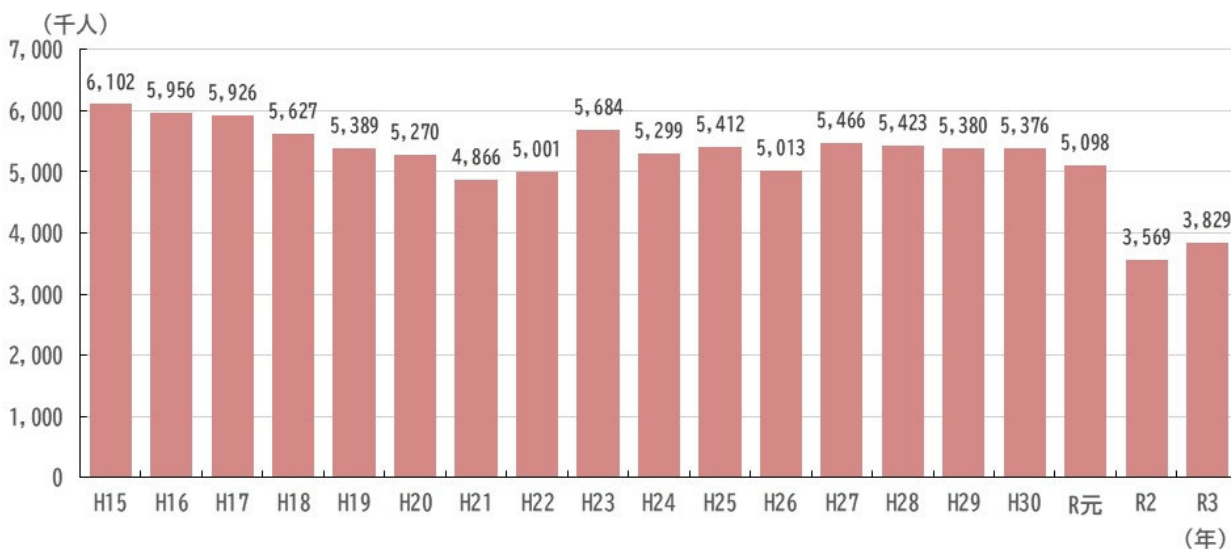


図 路線バスの年間輸送人員の推移

③ 乗合タクシー

松川下川崎乗合タクシー（あけび号）の乗車人員は、平成 26 年の 1,728 人をピークに 1,200 人前後を維持していましたが新型コロナウイルス感染症拡大等の影響により令和 2 年は令和元年より約 3 割利用が落ち込み、600 人台まで減少しています。

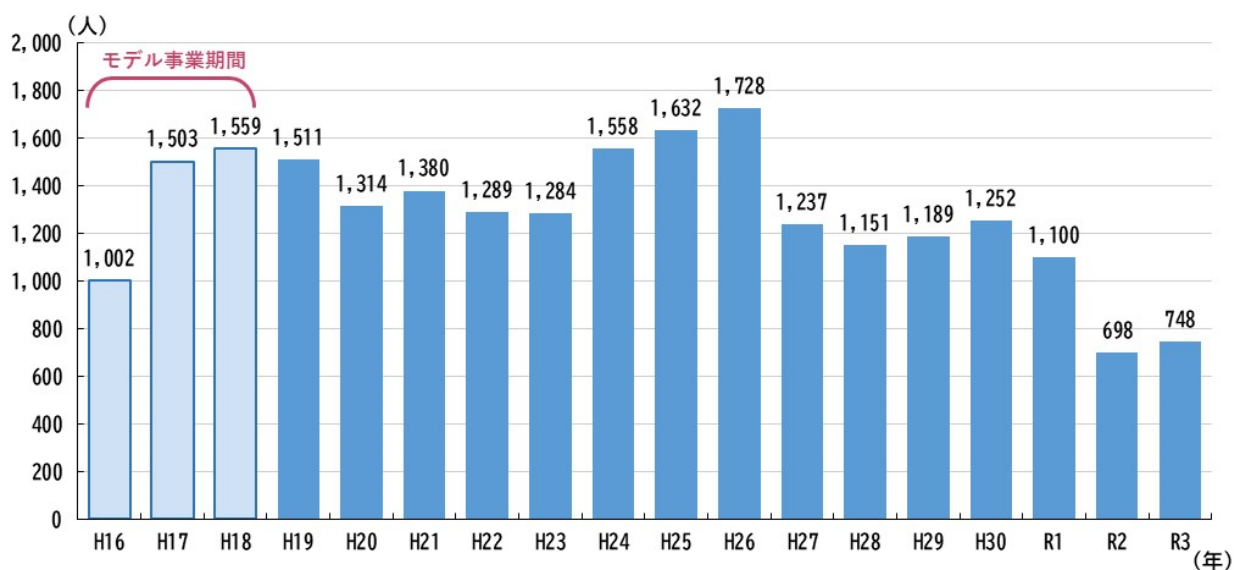


図 松川下川崎乗合タクシー（あけび号）の乗車人員の推移

④ タクシー

タクシーの輸送人員は年々減少しており、平成24年に増加に転じたものの平成25年以降減少傾向が続いています。新型コロナウイルス感染症拡大等の影響により、令和2年は令和元年より約4割利用が落ち込み、1,163千人まで減少しています。

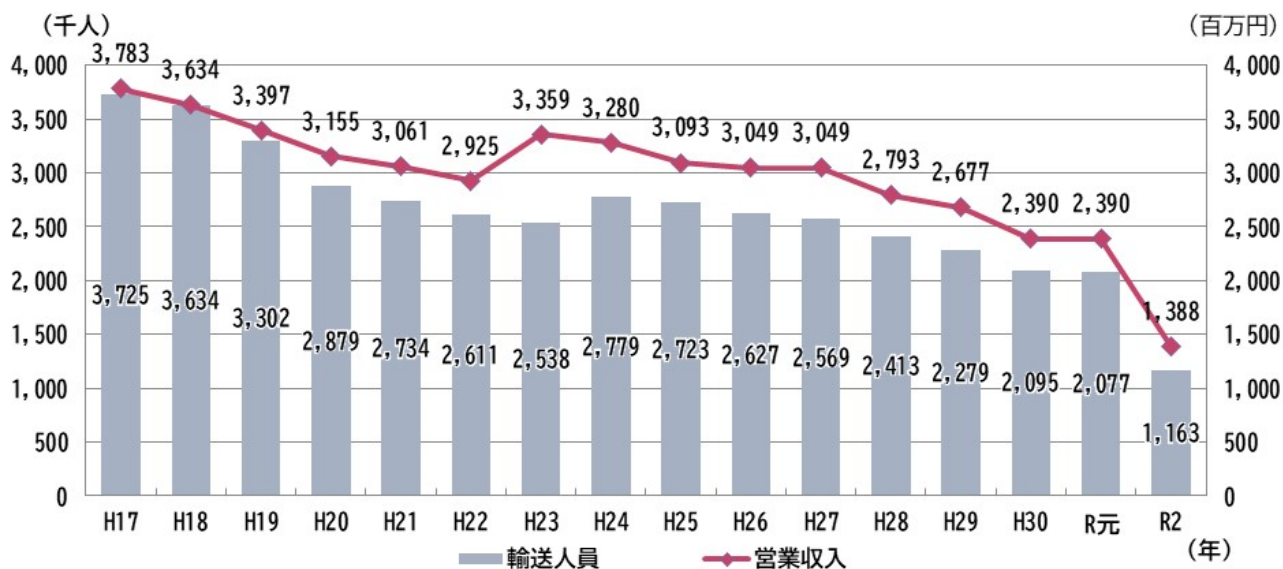


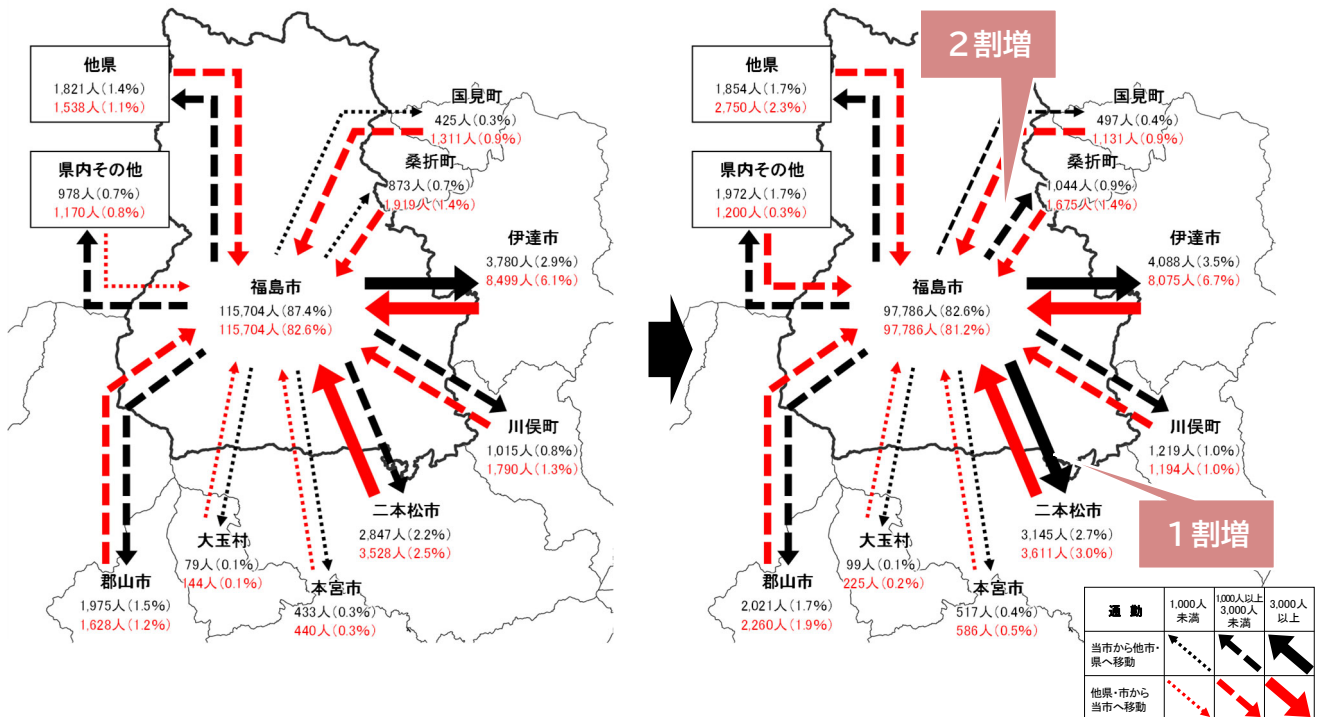
図 法人タクシー輸送人員と営業収入推移

資料：国土交通省東北運輸局 運輸要覧

3) 交通流動

① 周辺市町村間における通勤・通学流動の変化

【通勤】



【通学】

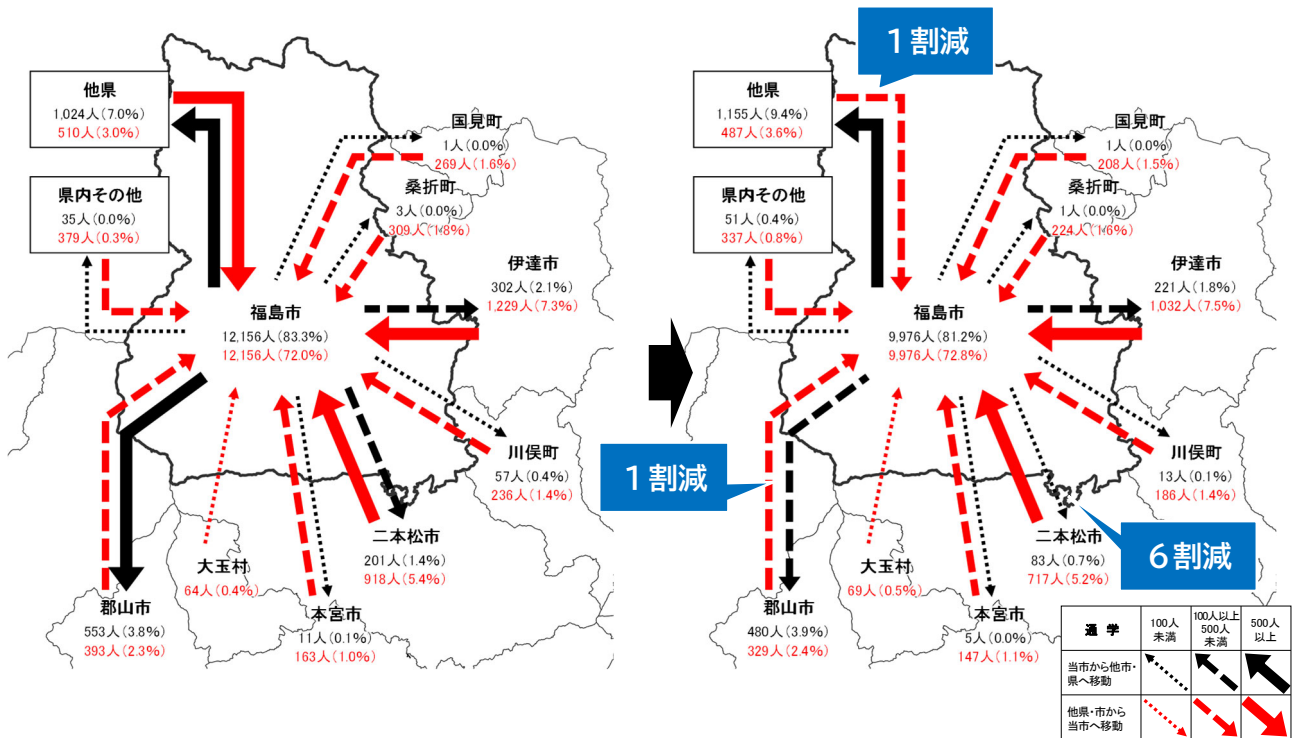


図 通勤、通学における流動図（左図：平成 22 年度、右図：令和 2 年度）

資料：国勢調査（平成 22 年度、令和 2 年度）

② 市内の流動状況

【買い物】

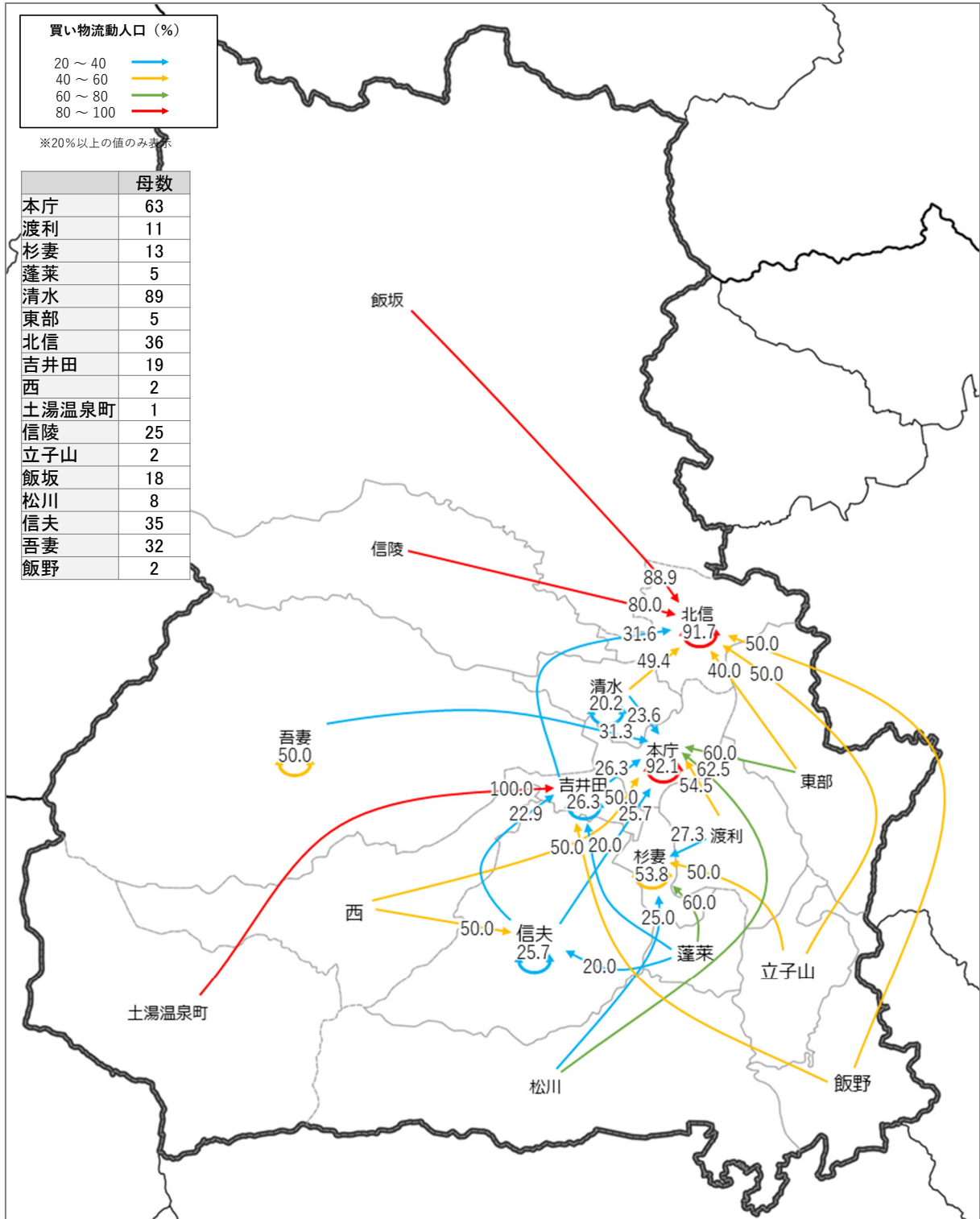


図 買物流動図

資料：令和4年度 福島市の公共交通に関する市民アンケート調査報告書

【通院】

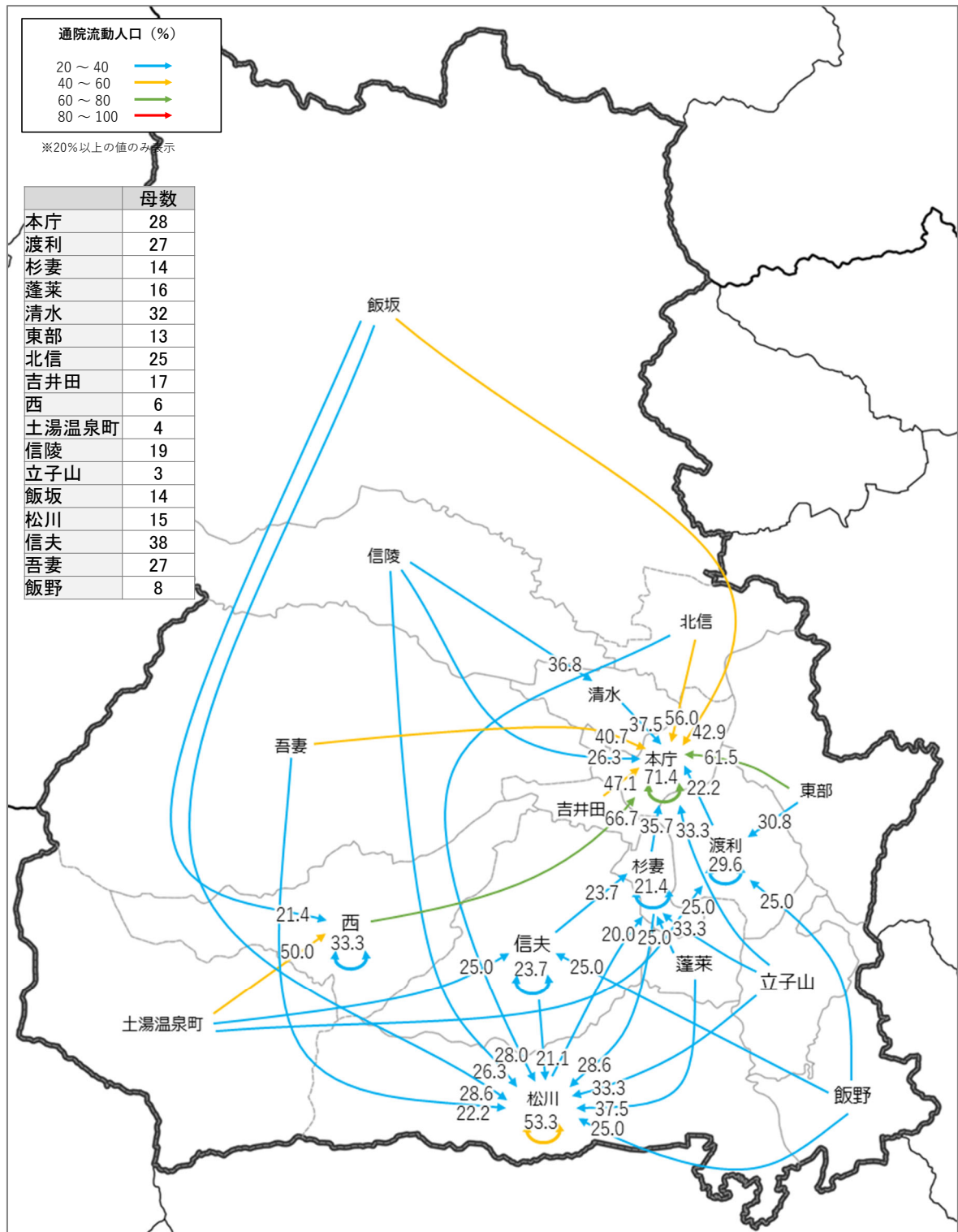


図 通院流動図

資料：令和4年度 福島市の公共交通に関する市民アンケート調査報告書

4) 代表交通手段分担率

市民アンケート結果による、代表交通手段分担率をみると、「自家用車（自分で運転）」が6割と最も多く、「鉄道」「路線バス」「タクシー」の公共交通は全体の約1割に留まっています。

地域公共交通網形成計画策定時の平成27年度と比較すると、新型コロナウイルス感染症や自然災害等の影響により、公共交通の利用率が若干低下し、「自家用車（自分で運転）」に移行している状況がうかがえます。

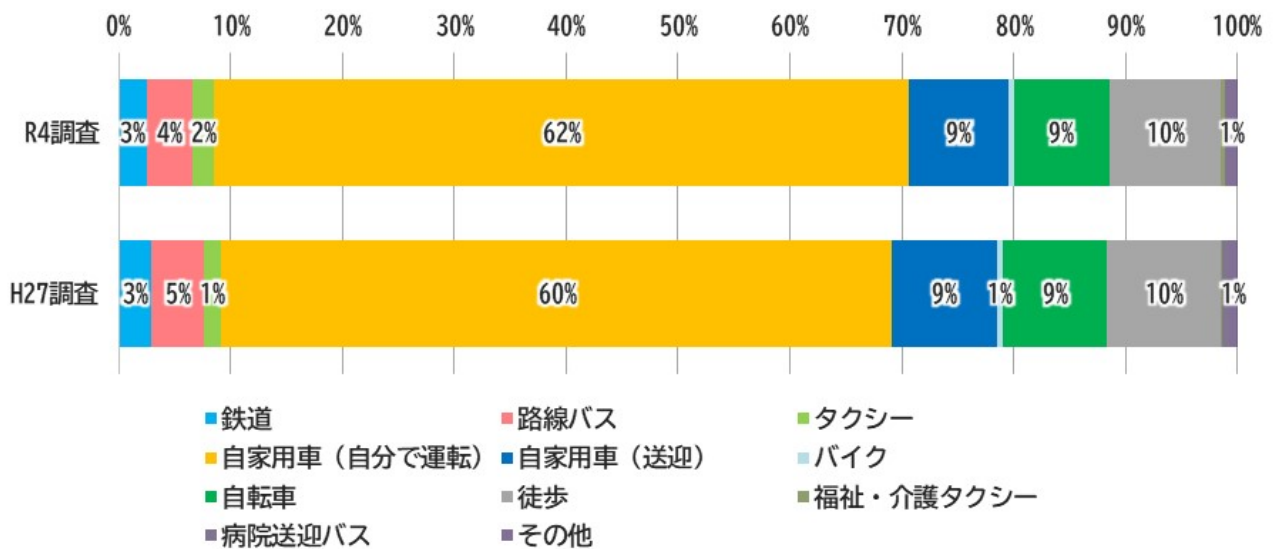


図 代表交通手段分担率

資料：令和4年度 福島市の公共交通に関する市民アンケート調査報告書

2-4 公共交通に対する市民意見・ニーズ

① 普段の買い物では、現金以外に「ICカードの電子マネー決済」「クレジットカード（磁気・IC型）」の利用がみられる

- ・ 普段の買い物で、現金以外に「ICカードの電子マネー決済」が約5割、「クレジットカード（磁気・IC型）」が約4割を占めています。
- ・ また、「ICカードの電子マネー決済」と回答した人のうち、約9割が「nanaco」を利用していることが明らかになりました。一方で、「WAON」や「Suica」が2割程度となっています。

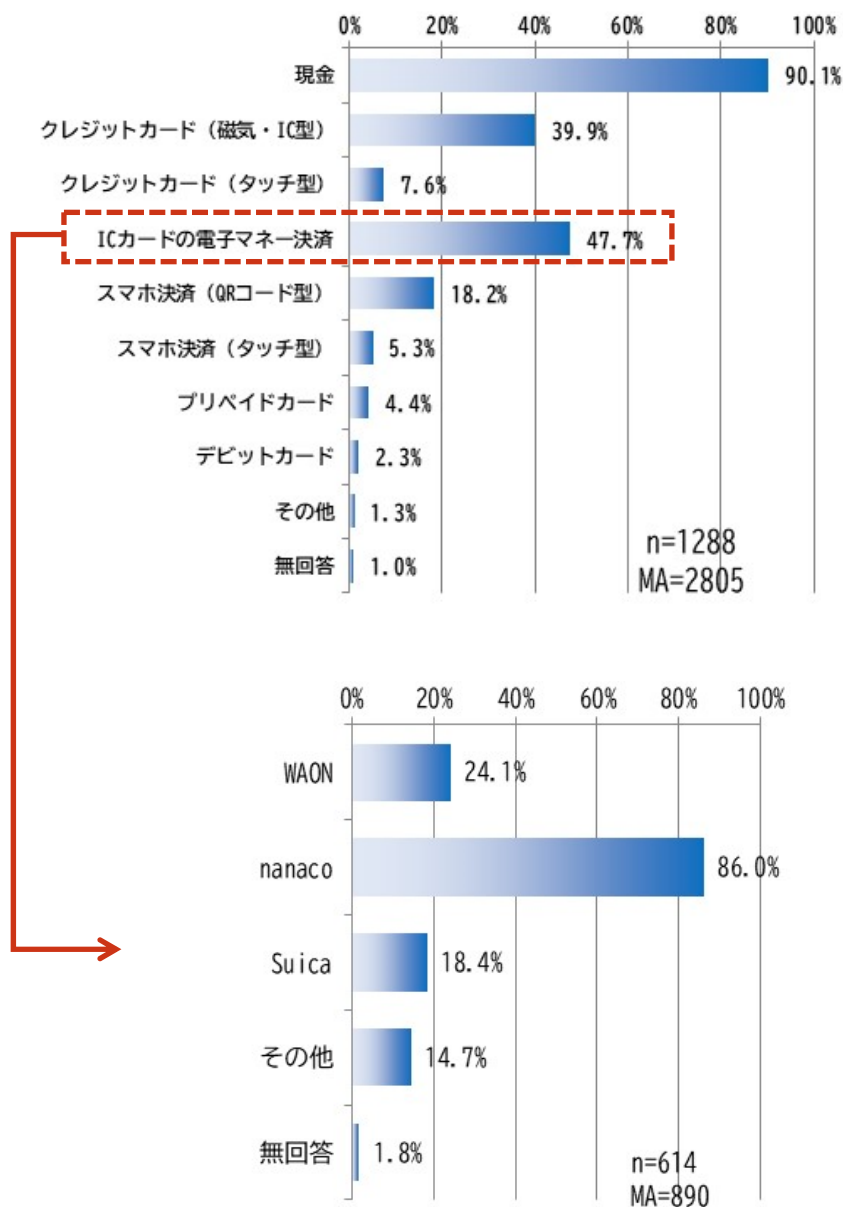


図 普段の買い物で利用している決済手段

資料：令和4年度 福島市の公共交通に関する市民アンケート調査報告書

② 日常の外出に対して、70歳以上で「送迎をお願いするは気が引ける」、30歳代や40歳代で「家族の送迎に時間を取られる」等の困りごとを抱えている

- ・市民アンケート結果によると、日常の外出や送迎での困りごとについての回答では、子育て世代が子どもの送迎時に時間を取られることへの負担や、高齢者が家族・知人に送迎を依頼する際に気が引けると感じている方が一定数います。
- ・日常の外出に関して送迎に関する部分に着目すると、「送迎をお願いするは気が引ける」は70歳以上が半数以上を占めています。
- ・また、「送迎に時間を取られる」は30歳代や40歳代が半数以上を占めています。

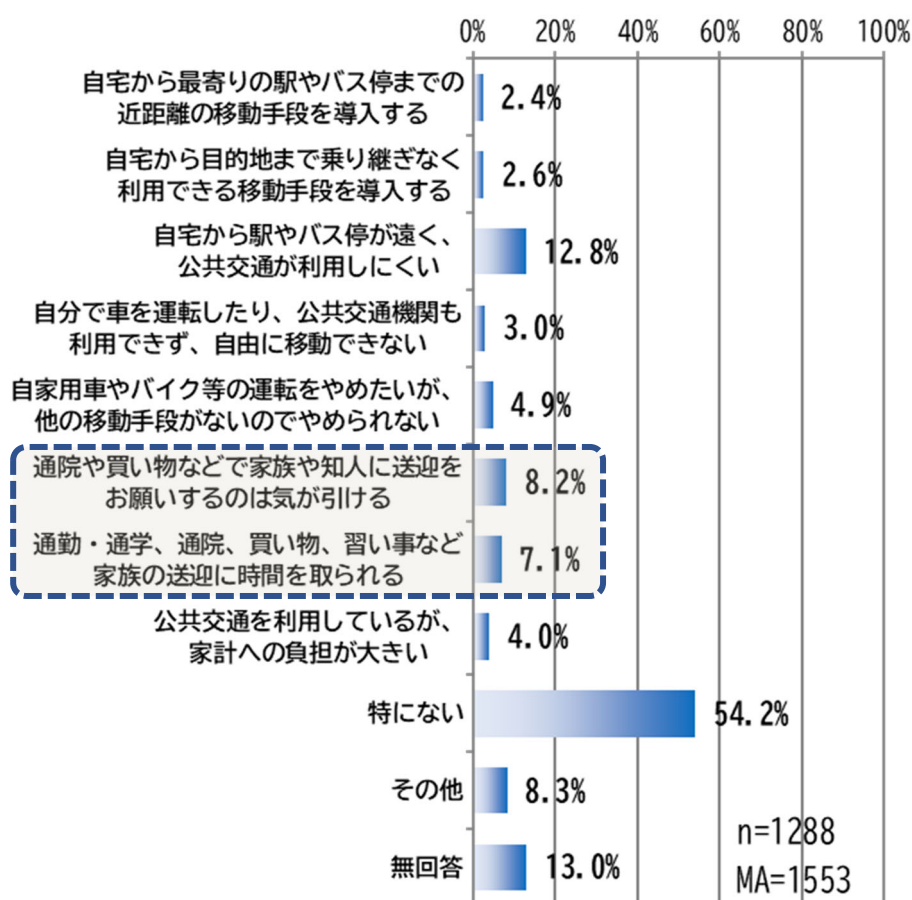


図 日常の外出や送迎での困りごと

資料：令和4年度 福島市の公共交通に関する市民アンケート調査報告書

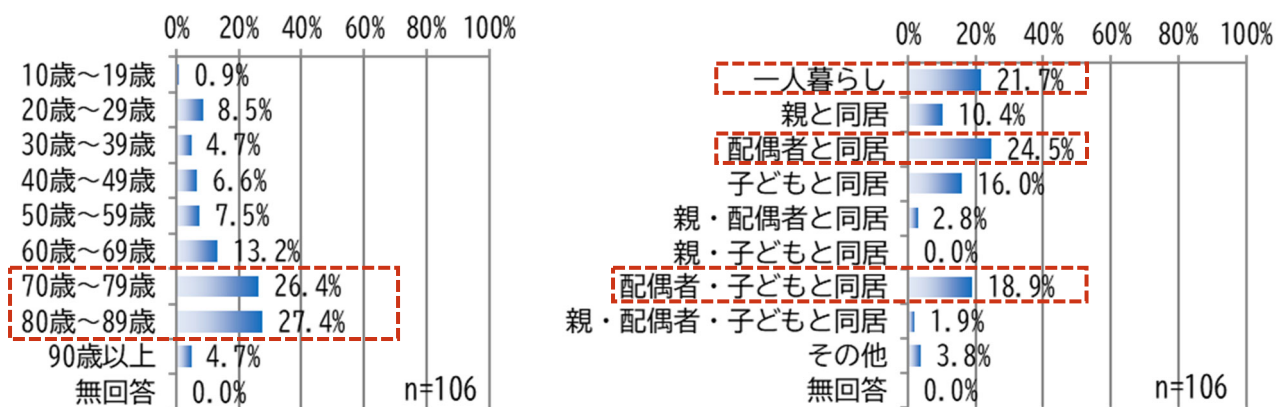


図 「通院や買い物などで家族や知人に送迎をお願いするのは気が引ける」と回答した人の属性（年代・家族構成）

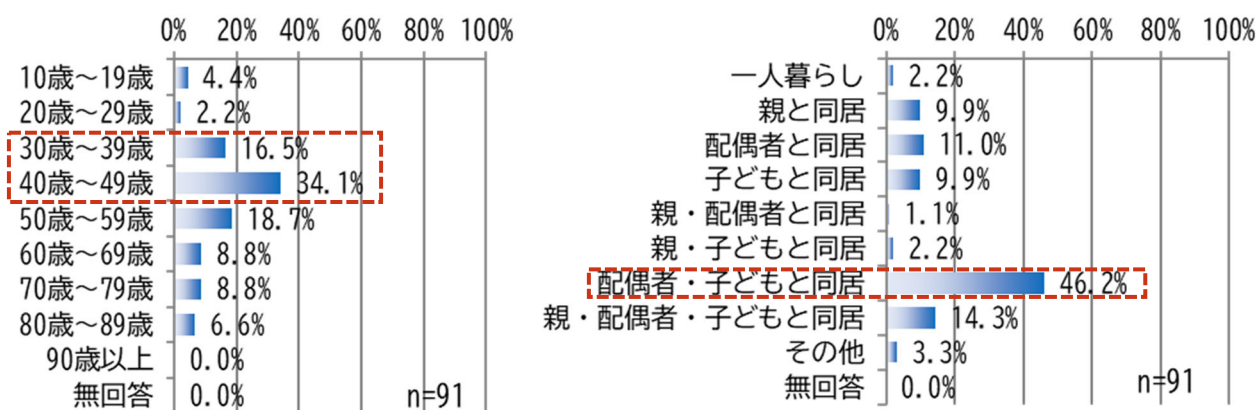


図 「通勤、通学、通院、買い物、習い事など家族の送迎に時間を取られる」と回答した人の属性（年代・家族構成）

資料：令和4年度 福島市の公共交通に関する市民アンケート調査報告書

③ 公共交通利用に対する考え方として、25歳以下及び65歳以上では「高齢化が進む中で交通事故防止のため、公共交通を利用したい」、一方で25～65歳では「公共交通を利用するつもりはない」と年代によって二極化している

- ・15～24歳の3～4割、65～89歳の3～5割が「高齢化が進む中で交通事故防止のため、公共交通を利用したい」と回答する一方で、25～64歳では、3～5割が「公共交通を利用するつもりはない」と回答しています。

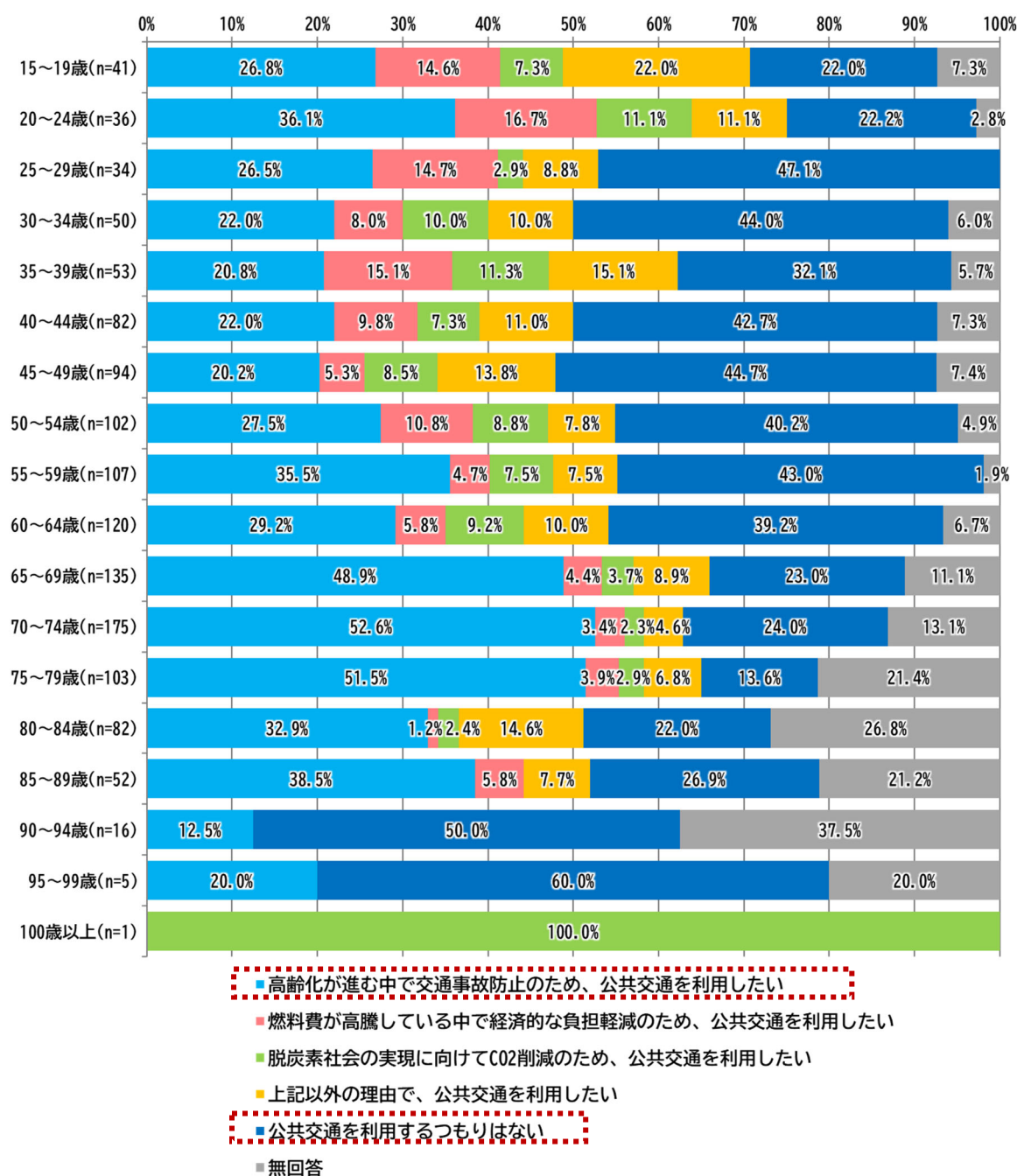


図 年代別の公共交通利用に対する考え方

資料：令和4年度 福島市の公共交通に関する市民アンケート調査報告書

④ 月に1日未満の公共交通をたまに利用する人をターゲットとした施策の訴求が効果的である

・鉄道に対して、全体の約4割が「運行本数が少ない」「自宅から駅が遠い」と回答しています。特に、「月に1日程度」「数か月に1日程度」「年に1日程度」利用している人では、全体と比較して回答した割合が高い傾向があります。

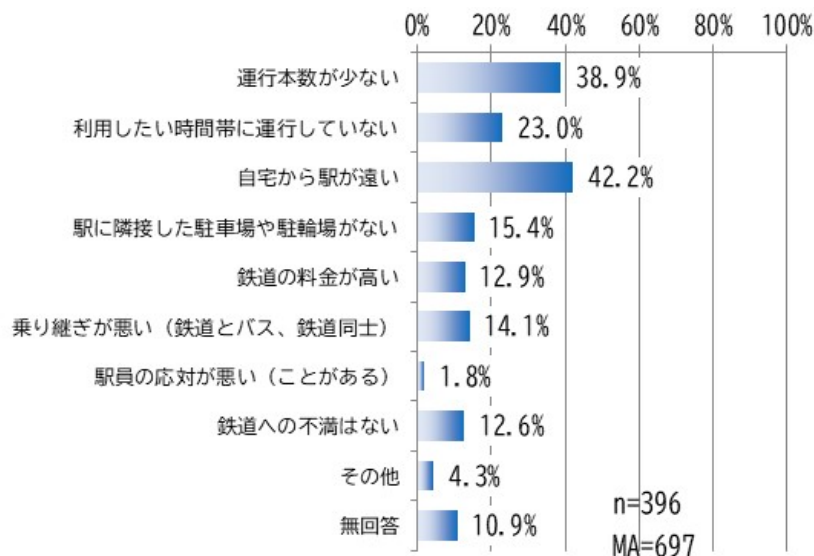
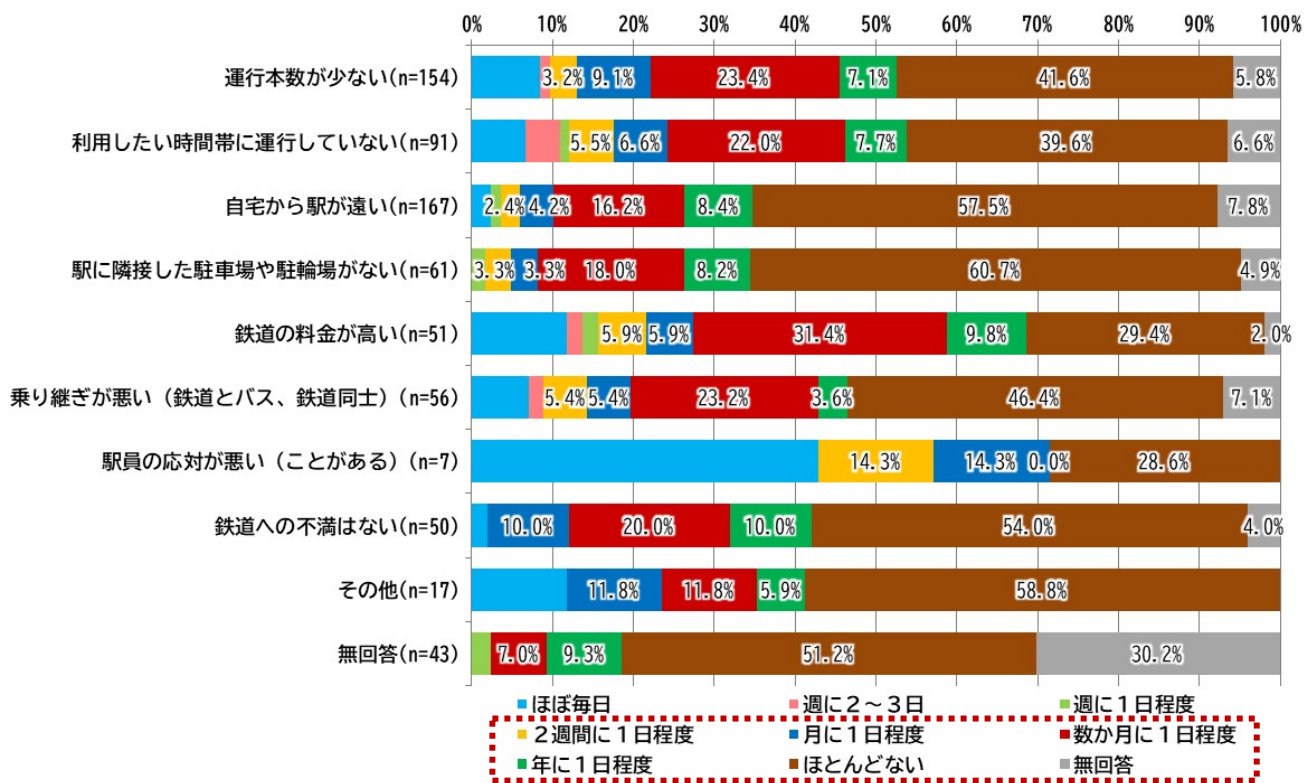


図 鉄道に対する不満な点



※グラフには赤枠の数字のみ記載

図 鉄道の利用頻度と不満な点

資料：令和4年度 福島市の公共交通に関する市民アンケート調査報告書

- ・路線バスに対して、全体の約6割が「運行本数が少ない」と回答しています。特に、「月に1日程度」「数か月に1日程度」「年に1日程度」利用している人では、全体と比較して回答した割合が高い傾向があります。

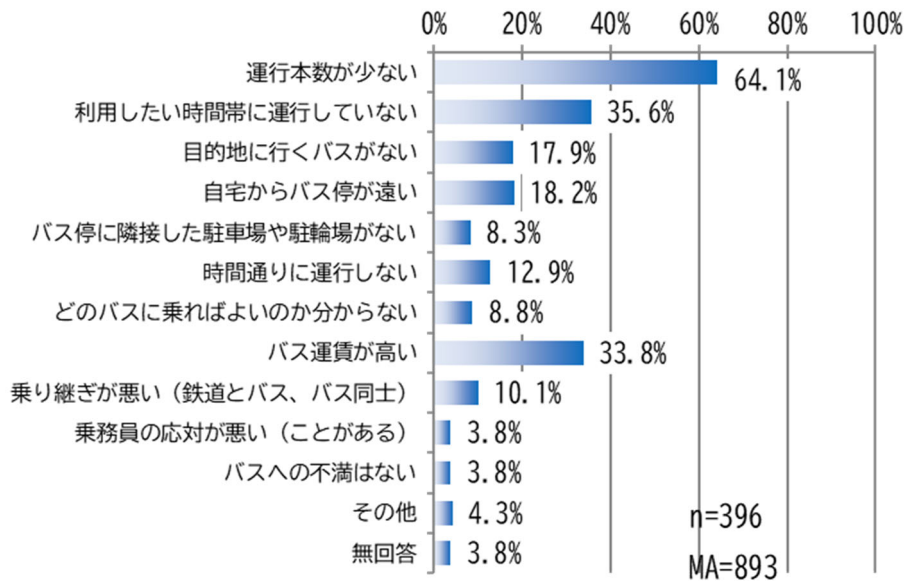


図 路線バスに対する不満な点

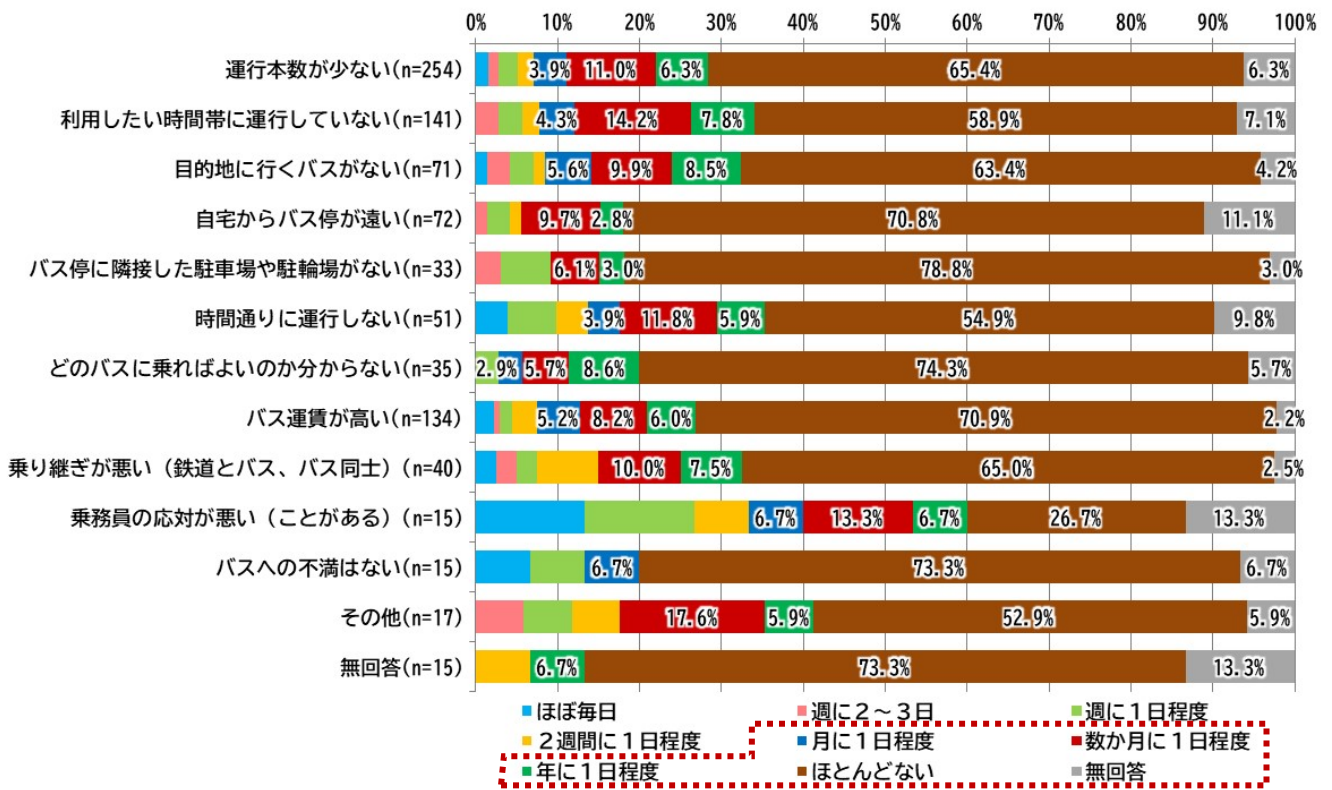


図 路線バスの利用頻度と不満な点

資料：令和4年度 福島市の公共交通に関する市民アンケート調査報告書

- ・タクシーに対して、全体の約6割が「タクシー運賃が高い」と回答しています。特に、「数か月に1日程度」「年に1日程度」利用している人では、全体と比較して回答した割合が高い傾向があります。

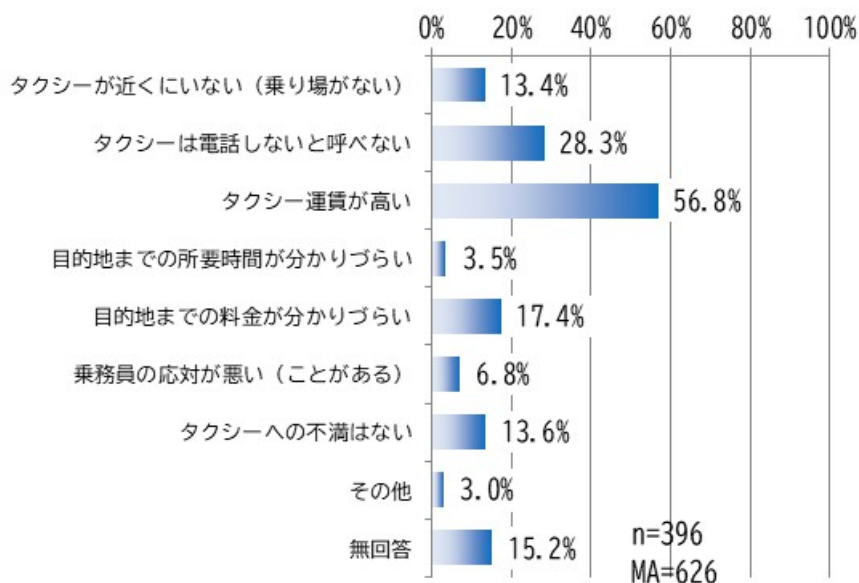


図 タクシーに対する不満な点

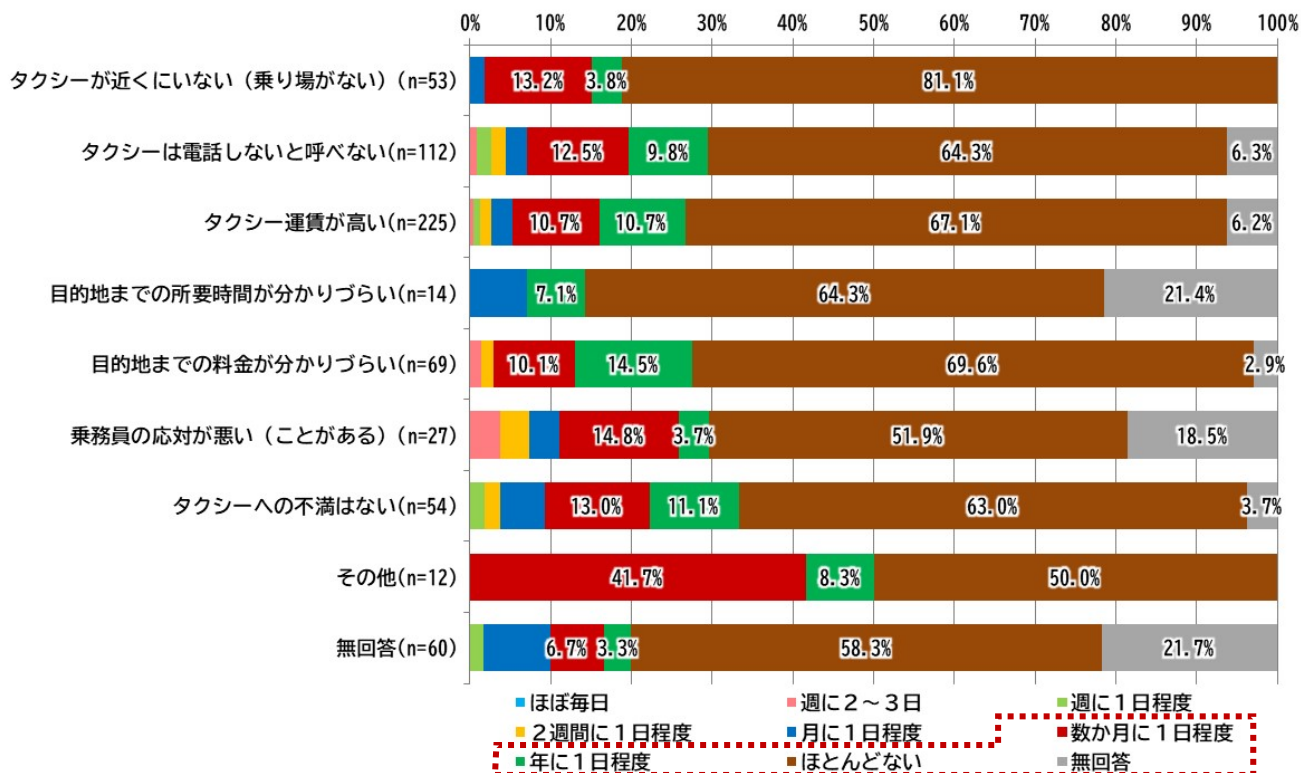


図 タクシーの利用頻度と不満な点

資料：令和4年度 福島市の公共交通に関する市民アンケート調査報告書